

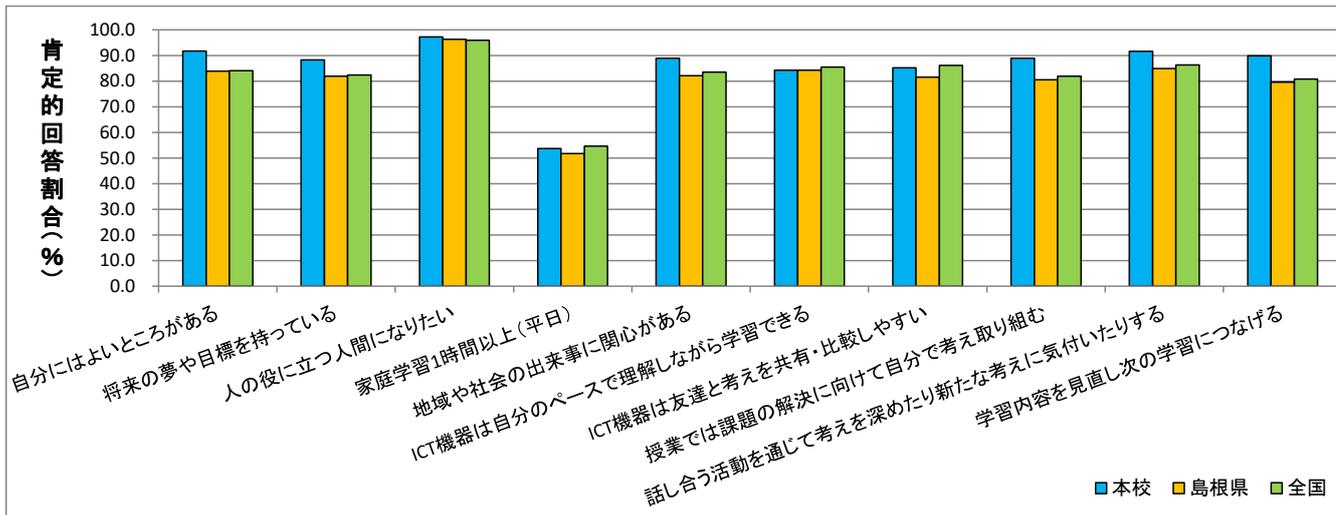
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
国語	○漢字や敬語など学校生活や日常生活で練習を繰り返したり、よく使うものについては正答率が高い。学校全体で漢字会に取り組んだり、生活の中で丁寧な言葉を使う習慣があることが結果に結びついていると考えられる。 ●自分の考えを書こうとする意欲はあるが、書き表し方の工夫などが苦手である。	・自分の考えを書こうとする意欲はあるが、書き表し方の工夫などが苦手である。書き表し方のよいモデルを知らなかったり、書いた文章を見直して改善に結び付けたりする経験が少なく、自分の文章のよさにふれることが少ないのではないかと考えられる。 ・自分の考えを文章にまとめる際には、モデルとなる文章を提示し、それを参考にして書いたり、書いた文章の相互評価を行い、よさを見つけたりすることで、書き表し方を工夫できるようにする。
算数	○式が決まっている計算問題の正答率が高い。家庭学習にまじめに取り組む習慣があることが結果に結びついている。 ●計算のきまりや計算に関して成り立つ法則について理解したり、活用したりすることが苦手である。問題解決の場面で、式の表す意味について説明したり、友達の表した式について考察する経験が不足しているのではないかと考えられる。	・問題の場面を式に表したときに、自分の考えを説明する活動を取り入れたり、友達の表した式からどのように考えたのかを考察する活動を取り入れることで、計算のきまりや計算に関して成り立つ法則についての理解を深められるようにする。

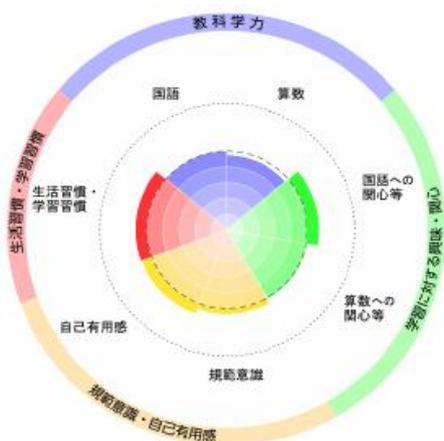
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
質問紙	○自己肯定感が高く自分のことを大切に思っている子供が多い。 ○話し合う活動や次の学習に向かう意欲が高い。友達との関りや自主学習に取り組む子供が多い。 ●ICT機器への接触は全国平均である。	・ICT機器に関わる時間をもっと設けたり、学習の中で使う機会を増やしたりする。

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・本校の研究主題「子供の見方、考え方を自ら働かせながら解決に向かう授業の実践」に向けて、子供が自分自身を表現できる授業改善について力を入れて取り組む。

【受検者数】
105 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。